

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 27 日現在

機関番号：28002

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592778

研究課題名（和文） エビデンスに基づいたがん看護援助に関する補完代替療法の教育プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of educational program which of complementary and alternative therapy with evidence based for cancer nursing practice

研究代表者

神里 みどり（Kamizato Midori）

沖縄県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80345909

研究成果の概要（和文）：

沖縄県内のがん拠点病院と緩和ケア病棟でがん看護に携わっている看護師を対象に、臨床現場で簡便に活用できる補完代替療法の教育プログラムを開発・実施し、臨床現場での活用状況を含めた評価を行った。教育プログラムの内容として、臨床現場で簡便に活用できる5分間アロママッサージや音楽療法、塗り絵、サプリメントのエビデンスなどを取り入れ、1日7時間のセミナーを3回実施した。7施設から86名の看護師が受講し、研修後の調査で、臨床現場での活用可能性は90%と高率であった。研修後は、独自に作成した補完代替療法のグッズが入った木製のヒーリングワゴンを各施設に配布し、定期的なフォローアップを行った。毎月・6ヶ月・1年後の評価結果から、臨床現場でがん患者や家族の苦痛症状の緩和やコミュニケーションツールとして有効な活用がなされていた。さらに、各施設での発展した活用の工夫がみられた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to develop and evaluate a brief and short educational program of Complementary and Alternative Therapy (CAT) for oncology nursing practice. We made an original healing cart made of wood which included aroma oil and carrier oil, healing music CD and CD player, crayon for art therapy and other goods for use in nursing practice. The brief CAT educational session took 7 hours in a day and was held 3 times. Eighty-six nurses from 7 hospitals took this CAT educational session. Ninety percent felt that CAT was useful for patients and family for relieving their distress and for communication tools in nursing practice.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：がん看護

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：エビデンス、がん看護援助、補完代替療法、教育プログラム

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1) 補完代替療法に関するがん看護援助に関連した我が国の研究報告はアロママッサージに関する研究や漸進的筋弛緩法などの研究が数件みられるのみで、その他は学会発表レベルに留まり、エビデンスレベルまで検討がなされていない研究が多い。コクランライブラリーによるがん患者を対象としたマッサージによる症状コントロールに関するシステマティック・レビューにおいてもエビデンスレベルに基づいた研究報告は8件と非常に少なく、その他の補完代替療法に関する研究報告も数少ない現状である。補完代替療法に関する継続教育では、米国や英国における施設内での看護職への教育がなされているところもあるが、教育プログラムとしてのアウトカム評価までは至っていない。米国におけるホリスティック看護協会や看護大学による補完代替療法に関する継続教育の実施やインターネットによる補完代替療法に関する教育は、徐々に見られるようになってきているが実際の臨床現場での補完代替療法の普及に関する報告は数少ない。

(2) これまで、看護職を対象とした補完代替療法についての知識や利用に関する国内外の数少ない調査報告より、多くの看護師が補完代替療法に関心を示しており、臨床現場で活用したいという希望が多い。しかし、現実的には、「時間がない」「知識不足」「研修の機会が少ない」などの理由で、補完代替療法の看護援助への利用があまりなされていない現状がある。さらには、専門家を招聘して習得しても、多忙な臨床現場で一般看護師が活用できないという現状があり、短時間で簡便に利用できる補完代替療法を活用した看護援助を取り入れたプログラムの開発は急務である。米国ではがん患者の症状コントロールへの対応としてPEPカード(エビデンスに基づいた簡便な看護援助のカード)が開発され、そのカードでは多くの補完代替療法の利用の推奨がなされている。本研究ではPEPカードのような簡便で安全なエビデンスレベルの高い補完代替療法の教育プログラムの開発を目指している。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、がん看護の臨床現場で活用可能なエビデンスに基づいた補完代替療法(以下、

CAT: Complementary and Alternative Therapy)の看護援助を明確にし、安全で簡便かつ効果的なCATの継続教育プログラムの開発を行うことを目的とする。

(2) 作成したプログラムを沖縄県内の地域連携がん拠点病院やホスピス緩和ケア病棟の看護師を対象に実施し、そのプログラム終了後に、臨床現場でどのようにCATに関する看護援助の活用が効果的になされているのか、そのアウトカム評価を行う。

3. 研究の方法

(1) 文献検討

がん看護実践で活用可能な補完代替療法を選出し、それらの効果と安全性のエビデンスについて、文献を用いて検討した。アロマセラピー/マッサージ、音楽/音楽療法、アートセラピー、呼吸法/リラクゼーション法、タッピング・タッチの5つについて、がん領域のガイドライン、Cochrane Database Systematic Review、米国がん看護学会のシステマティック・レビュー、および医学中央雑誌・CINAHL・MEDLINEにより検索された過去5年間の研究論文を用いて、効果と安全性に関する記述レビューを行った。

(2) CATに関するニード調査

国内のがんセンターや沖縄県内のがん拠点病院、ホスピス緩和ケア病棟の看護師(1134名)を対象に、現在活用しているCATや今後活用したいCATに関する無記名によるアンケート調査を行なった(回収率71%:801名)。

(3) 教育プログラムの開発・実施と評価

文献検討やCATに関する実態調査ならびに国内外の専門家による意見聴取などにより臨床現場で活用可能な5種類のCATに関する教育プログラムを開発した。

作成した教育プログラムを県内のがん拠点病院

や緩和ケア病棟の看護師を対象に実施し、CAT の実用可能性に関するグループディスカッションやアンケート調査を行なった。

(4) フォローアップ・面接調査による CAT の評価

教育プログラムを提供後、受講した看護師が所属している病棟に、独自に作成したヒーリングワゴン(以下、ワゴン)を配布し、定期的にフォローアップを行いながら CAT の実践状況に関する面接調査を行なった。ヒーリングワゴンには「精油」「キャリアオイル」「癒しの音楽 CD」「CD プレイヤー」「塗り絵やクレヨン」「癒しの写真」「カメラ」などを搭載し、ワゴンの必要物品を約 2 年間提供した。

(5) ワゴン設置 1 年後のアンケート調査

ワゴンを設置した 7 施設の看護師(289 名)を対象に、ワゴンに搭載されている CAT の活用状況と効果と安全性に関するアンケート調査を行なった(回収率 58.1% : 166 名)。

(6) データの分析

アンケート調査の量的データは記述統計を行い、自由記載は類似の内容をまとめて整理した。面接調査による質的データは逐語録を作成し、質的帰納的に分析を行った。

(7) 倫理的配慮

沖縄県立看護大学倫理審査委員会や各施設に研究計画書を提出し、承認後に研究を実施した。研究実施の際には必ず対象者にプライバシーの保護などを口頭で説明し同意を得て行なった。但し、無記名のアンケート調査に関しては、記載をもって同意を得たと判断した。

4. 研究成果

(1) 文献検討

ガイドラインでは、どの CAT も実践に関して強く推奨されるには至っていなかったが、小規模な研究や質的研究では、痛みや倦怠感などの症状の改善や、不安の軽減やコミュニケーションの促進などの心理社会的効果が報告されていた。アロマセラピー/マッサージと音楽/音楽療法は、ガイドラインに実施時の注意点が示されており、音楽/音楽療法、アートセラピー、呼吸法/リラクセ

ーション法は、患者の好みへの配慮や実施者に訓練が必要であることが指摘されていた。今回選出した 5 種類の CAT は、有用な看護介入となる可能性が高く、簡便な方法を考案し、注意点を守り、患者の反応を見ながら実施することで、安全性も保証できると考えられた。

(2) CAT に関するニード調査

CAT の活用が最も高かった施設は「緩和ケア病棟 69.2%」でその次が「がんセンター 40.7%」「がん拠点病院 26.9%」「一般病院 19.8%」の順であった。CAT 活用の困難感で最も多かったのが、「技術が未熟 73.4%」「実施する時間がない 70.4%」「方法がわからない 67.7%」であった。今後 CAT を活用したいと希望している看護師は 80%であった。その中で最も希望の多かった CAT は「アロマセラピー 72.0%」「マッサージ 61.1%」であった。

(3) 教育プログラムの開発・実施・評価

開発した教育プログラムは、臨床現場で簡単に活用できるような実践的な内容にした。例えば 5 分間アロママッサージ、塗り絵、癒しの音楽療法、癒しの写真鑑賞、サプリメントの簡便な知識などである。

教育プログラムは平成 22 年度に 2 回、平成 23 年度に 1 回開催し、総計 86 名の看護師が参加した。プログラムは 1 日 7 時間の小グループ形式で、演習・実技を主に取り入れたセミナーにした。

セミナー終了後のアンケート結果では、実践での活用可能性が最も高かったものがアロママッサージ(100%)、次に音楽療法やタッピング・タッチ(96%)、塗り絵(94%)であった。塗り絵は、能動的なので患者への普及は困難ではないかという意見があがった。

(4) フォローアップ・面接調査による CAT の評価

7 施設 9 病棟にヒーリングワゴンを設置し毎月のフォローアップをかねて活用状況の面接を看護師に行なった。最も多く活用されていた CAT はアロマセラピーやマッサージ、CD による音楽療法、塗り絵などであった。各施設によって活用状況が異なっており、入院患者、外来患者、患者会、家族などを対象に施設の特徴に応じた活用がなされていた。CAT の効果として患者・家族の身体的・

心理・社会的な痛みの緩和、リラクゼーション、気分転換さらにコミュニケーションの促進などがみられた。特に終末期の患者に対して看護師だけでなく、家族に手技を教えて、家族が患者に CAT を実施することによる満足感が高かった。

施設によっては、各自で CAT に係る物品の予算を組み施設費で費用を賄ったり、独自でヒーリングバスケットを考案しワゴン設置以外の病棟で活用するなど発展した CAT の活用がなされていた。課題として業務多忙の場合は CAT 活用の優先順位が下がる病棟も見られたが業務多忙でもケアのなかに取り入れて成功している病棟もあり、看護師の活用に影響している要因など今後検討していく必要がある。

(5) ワゴン設置1年後のアンケート調査

①ワゴンに搭載した物品の活用状況は、アロママッサージ5割、音楽療法7割、塗り絵4割であった。

②看護師が認識しているアロマセラピーの効果として、「リラクゼーション効果」「気分転換」「看護師と患者/家族のコミュニケーションの促進」があげられた。精油やオイルによるアレルギー反応を生じた経験のある看護師は1名のみであった。アロマセラピーの活用において不都合があったと回答した看護師は16名(15%)であり、その内容は「ケアに時間がかかる」「においがきついと拒否された」「セミナーに参加していないため自己流」などがあげられた。

③音楽療法の効果を感じている看護師は、63%であり、その効果の内容はアロマセラピーと類似していた。好まれた音楽の上位は「琉球ソング」「家カフェ」「エンヤ」であった。音楽療法の活用において不都合があったと回答した看護師は12名(11%)で、その内容は「大部屋で周りの患者に迷惑になる」「患者の好みの音楽がなかった」「静かな曲調で気分が沈むこともある」などがあげられた。

④塗り絵の効果を感じている看護師は40%以上であり、効果の内容はアロマセラピーと類似していたが緩和ケア病棟では「患者と家族のコミュニケーションの促進」が追加された内容であった。塗り絵の活用で不都合であったと回答した看護師は7名(10.8%)であり、その内容は「患者が興味

を示さなかった」「図柄が細かく、高齢者には見づらい」などがあげられた。

⑤今後のヒーリングワゴンの活用に関しては、「このまま継続したい」と答えた者は、がん拠点病院が99名(85.3%)、緩和ケア病棟が17名(68.0%)であった。

ヒーリングワゴンを活用したことで感じた効果や影響については、がん拠点病院および緩和ケア病棟ともに「患者や家族が喜んだので嬉しかった」「患者や家族と関わるためのツールの一つとして活用できた」「補完代替療法に対する関心が高くなった」であった。

今後の要望として「セミナーを継続して欲しい」「アロマや音楽をもっと増やして欲しい」や「アロマオイルの効果(リラクセスや気分転換など)の書かれた表が欲しい」などがあった。

(6) 結論

簡便で短時間で活用できる CAT の教育プログラムの内容は、実践で活用できる可能性が高いことが明確になった。しかし、各施設での使用状況の相違もあり各施設の現状にあった CAT 活用の工夫が必要である。また、CAT の教育プログラムのさらなる精練と教育プログラムの継続、ならびにがん拠点病院や緩和ケア病棟以外の施設への CAT の普及を目指していくことが必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)
学術論文

- ① 相原優子、神里みどり、謝花小百合、玉井なおみ、塚原ゆかり、濱田香純、佐伯香織、吉澤龍太、山本弥生、清水かおり、がん看護実践に活用可能な補完代替療法の効果と安全性のエビデンスに関する文献検討、沖縄県立看護大学紀要、査読有、13巻、2012、1-16。
- ② 謝花小百合、神里みどり、終末期がん患者の家族ケアとしての死後のケアに関する文献検討、沖縄県立看護大学紀要、査読有、13巻、2012、103-111。
- ③ 謝花小百合、神里みどり、終末期がん患者の献体の意思を支えるための看取りから死別に至

までの家族ケア、沖縄県立看護大学紀要、査読有、13巻、2012、73-82.

- ④ 前田和子、大瀧明美、神里みどり、看護職の役割拡大と島しょ保健看護：沖縄県に必要な高度実践看護職とその教育、看護教育、53(3)、2012、234-240.
- ⑤ 神里みどり、野口美和子、大学院における島しょ看護の高度実践指導者育成への挑戦、看護教育、53(1)、2011、64-70.
- ⑥ 神里みどり、Special Issue ベッドサイドでできるアロママッサージの効果、Expert Nurse、27(12)、2011、59-70.
- ⑦ 神里みどり、玉城清子、當山富士子、野口美和子、組織的な大学院教育改革推進プログラム-「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の取組、沖縄県立看護大学紀要、査読有、12巻、2011、113-121.
- ⑧ 玉井なおみ、神里みどり、乳がん体験者に対する効果的な運動を動機づけるための理論的枠組みの検討、沖縄県立看護大学紀要、査読有、12巻、2011、93-104.
- ⑨ 宮城千秋、神里みどり、緩和ケア病棟における緩和ケアの質評価ツール STAS-J 導入に対するコア看護師の認識、沖縄県立看護大学紀要、査読有、12巻、2011、65-72.
- ⑩ 清水かおり、神里みどり、島嶼看護職の ICT を用いたネットワーク構築とサポート体制の検討、沖縄県立看護大学紀要、査読有、12巻、2011、55-64.

[学会発表] (計 17 件)

- ① Midori Kamizato, Yuko Aihara, Sayuri Jahana, Kaori Saeki, Naomi Tamai, Mieko Taira, Kasumi Hamada, Ryuta Yosizawa, Kayo Nagano, Risa Takamiya, The Searching for Effectiveness and usefulness of Tapping Touch into Nursing Practice, International Hiroshima Conference on Caring and Peace, 03/25/2012, Hiroshima.
- ② Mieko Taira, Midori Kamizato, Yuko Aihara, Sayuri Jahana, Kaori Saeki, Naomi Tamai, Kasumi Hamada, Ryuta Yosizawa, Kayo Nagano, Risa Takamiya, The Searching for Effectiveness of Healing Touch into

Nursing Practice , International Hiroshima Conference on Caring and Peace, 03/25/2012, Hiroshima.

- ③ 神里みどり、相原優子、謝花小百合、玉井なおみ、吉澤龍太、濱田香純、清水かおり、塚原ゆかり、永野佳世、平良美栄子、佐伯香織、一般病院におけるヒーリングワゴンを活用した補完代替療法の導入効果、第 26 回日本がん看護学会誌、2012 年 2 月 12 日、島根.
- ④ 濱田香純、神里みどり、相原優子、謝花小百合、玉井なおみ、吉澤龍太、清水かおり、塚原ゆかり、永野佳世、平良美栄子、佐伯香織、緩和ケア病棟におけるヒーリングワゴン導入を通じた補完代替療法の活用状況と効果、第 26 回日本がん看護学会誌、2012 年 2 月 12 日、島根.
- ⑤ 謝花小百合、神里みどり、死亡直後の終末期がん患者の家族にとっての必要なお別れの時間、第 26 回日本がん看護学会誌、2012 年 2 月 12 日、島根.
- ⑥ 吉澤龍太、神里みどり、がん性疼痛アセスメントツール導入による看護師のアセスメント能力の向上とそれに伴う円滑な意思との連携への効果、第 26 回日本がん看護学会誌、2012 年 2 月 12 日、島根.
- ⑦ Midori Kamizato, Sayuri Jahana, Yuko Aihara, Naomi Tamai, Yukari Tukahara , Kaori Shimizu, Ryuta Yosizawa , Development of Brief Education Program of Complementary and Alternative Therapy for Oncology Nursing, Supportive Care In Cancer, 06/23/2011, Atene.
- ⑧ 相原優子、神里みどり、清水かおり、謝花小百合、玉井なおみ、濱田香純、がん看護実践に活用可能な補完代替療法の効果と安全性のエビデンスに関する文献検討、第 37 回日本看護研究学会、2011 年 8 月 8 日、横浜.
- ⑨ 神里みどり、吉澤龍太、終末期脳腫瘍患児の両親に対するアロママッサージと芳香浴の効果、第 35 回日本死の臨床研究年次大会、2011 年 10 月 10 日、千葉.
- ⑩ 吉澤龍太、神里みどり、痛みのアセスメントシートがもたらした終末期患者の包括的スクリーニングの効果、第 35 回日本死の臨床

- 研究年次大会、2011年10月10日、千葉。
- ⑪ 神里みどり、清水かおり、離島診療所看護師の補完代替療法の活用の実態、第6回日本ルーラルナーシング学会学術集会抄録集、2011年10月15日、北海道。
- ⑫ 吉澤龍太、神里みどり、がん診療拠点病院に勤務する看護師のがん性疼痛に関する知識の向上を目指した介入の検討、第31回日本看護科学学会、2011年12月3日、高知。
- ⑬ 田島瑞穂、神里みどり、がん看護補完代替療法の遠隔セッションを通じた看護師の反応と実践への応用、第25回日本がん看護学会誌、2011年2月13日、神戸。
- ⑭ 塚原ゆかり、神里みどり、在宅における終末期がん患者の家族介護者に対するアロママッサージの反応、第25回日本がん看護学会誌、2011年2月13日、神戸。
- ⑮ Naomi Tamai , Midori Kamizato, Sayuri Jahana, Mizaho Tajima, Yuko Aihara, Kaori Saeki, Kaori Shimizu, Yukari Tukahara, Nurses' knowledge and use for Complementary and Alternative Medicine in Japan, The 2010 Conferences Organizational Committee , 05/27/2010, Taipei.
- ⑯ Sayuri Jahana, Midori Kamizato, A Review of Literature about Postmortem Care as Family Care, The 2010 Conferences Organizational Committee , 05/27/2010, Taipei.
- ⑰ Midori Kamizato, Yuko Aihara, Kaori Saeki, Sayuri Jahana, Anxiety of Endocrine Therapy Relation to Menopausal Symptom for Japanese Women with Breast Cancer, Supportive Care In Cancer, 06/26/2009, Roma.

[図書] (計2件)

- ① 神里みどり (浅野美知恵、奥野滋子編)、南江堂、根拠がわかるがん看護ベストプラクティス：第Ⅲ章 がん治療の最新エビデンス：補完代替療法、2012、164-167。
- ② 神里みどり、照林社、がん看護シリーズ ONS、ナースだからできる疼痛マネジメント：ナースができる痛みを和らげるケア、2011、62-69。
- ③ 塚原ゆかり、照林社、がん看護シリーズ ONS、

ナースだからできる疼痛マネジメント：アロマセラピー、アロママッサージ、2011、70-78。

[その他]

ホームページ等

がんになっても 安心社会への模索 28「癒やしワゴンの試み」沖縄タイムス新聞、2011年10月29日 第26面

http://www.okinawatimes.co.jp/article/2011-10-29_25334/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神里 みどり (Kamizato Midori)
 沖縄県立看護大学・看護学部・教授
 研究者番号：80345909

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

・清水 かおり (Shimizu Kaori)
 名桜大学・人間健康学部・講師

・相原 優子 (Aihara Yuko)
 元沖縄県立看護大学博士後期課程

・謝花 小百合 (Jahana Sayuri)
 沖縄県立看護大学・看護学部・講師

・玉井 なおみ (Tamai Naomi)
 沖縄県立看護大学・看護学部・嘱託教員

・佐伯 香織 (Saeki Kaori)
 沖縄県立看護大学・博士後期課程

・平良 美栄子 (Taira Mieko)
 沖縄県立看護大学・博士後期課程

・塚原 ゆかり (Tukahara Yukari)
 元沖縄県立看護大学・博士前期課程

・田島 瑞穂 (Tajima Mizuho)
 独立行政法人国立がん研究センター・看護師

・吉澤 龍太 (Yosizawa Ryuta)
 独立行政法人那覇市立病院・看護師

・濱田 香純 (Hamada kasumi)
 アドベンチスト・メディカルセンター・看護師

・永野 佳世 (Nagano Kayo)
 沖縄県立看護大学・博士前期課程

・高宮 里沙 (Takamiya Risa)
 沖縄県立看護大学・看護学部・助手

・山本 弥生 (Yamamoto Yayoi)
 元沖縄県立看護大学・看護学部・助手